

新潟水俣病地域福祉推進条例

「県の基本的施策」に基づく取組について

～ 令和 6 年度の実施状況及びこれまでの実績 ～

〈 第 5 条 県の基本的施策 〉

1 新潟水俣病患者への保健・福祉対策

新潟水俣病患者の福祉の増進を図るため、療養等による経済的負担の軽減を目的とした手当の支給や、患者の心身の状況等に応じた保健や福祉に関する取組を行う。

2 地域社会の再生・融和の促進

新潟水俣病によって人々の絆に深刻な影響を受けた地域社会の再生と融和が図られるよう、新潟水俣病の被害者を含めた地域住民の交流を促進する取組を行う。

3 教育・啓発の推進

県民が、新潟水俣病についての正しい理解を深め、新潟水俣病の歴史と教訓を将来に伝えることができるよう、新潟水俣病に関する教育の推進や啓発活動の充実などを行う。

4 民間団体等の活動の促進

民間団体等が自発的に行う新潟水俣病の歴史と教訓を伝える活動や、新潟水俣病により生じた問題の解決のための活動が促進されるように努める。

5 ふれあい館の活用と情報発信

教育の推進や啓発活動の充実、民間団体等の活動を促進するため、新潟県立環境と人間のふれあい館（以下、「ふれあい館」という）を活用した新潟水俣病に関する情報の発信や提供を行う。

誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現

1 新潟水俣病患者の保健・福祉対策

■訪問保健指導事業

新潟水俣病患者の健康不安等を解消するため、保健師等が患者の家庭を訪問し、健康管理指導等を実施します。

- 医療手帳、被害者手帳所持者に対して、五泉市、阿賀野市及び阿賀町の保健師等が実施（県から委託）

※ 県の認定患者に対しては、別の事業で県の保健師が実施

新潟市の認定患者・手帳所持者に対しては、新潟市の保健師等が実施

【R6 年度】

- 訪問件数：107 件（R6.12 末現在）

（参考）

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
訪問件数	288	293	277	250	235	221	220	198	183	183	179	107

■相談窓口体制整備事業

新潟水俣病発生地域に居住する住民の健康不安や、水俣病諸制度の案内・受付を始めとした幅広い相談等に応じるため、総合的な相談窓口を設置します。

- 五泉市、阿賀野市及び阿賀町の各市役所・町役場の本所及び支所に年間を通じて相談窓口を設置（県から委託）

- 設置数：計10か所（受付業務のみの支所も含む）

※ 新潟市は保健衛生総務課のほか、各区役所、地域保健福祉センターに設置
〔計 16 か所〕

【R6 年度】

- 相談件数：141 件（R6.12 末現在）

- 主な相談内容

- ・ 「新潟水俣病福祉手当」や「健康不安者に対する健診」、その他公健法に基づく「認定申請」など、水俣病に関する各種制度の申請等に関すること
- ・ 水俣病関係の各種手帳の利用に関すること
- ・ しびれやふるえ、その他健康不安に関すること



（相談窓口チラシ）

（参考）

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
相談件数	147	304	266	235	193	168	229	155	131	129	166	141

■ 介護予防在宅支援事業

しびれなどの神経症状を有する方に対して、日常生活で役立つケア方法の学習や次世代を担う学生（QOLサポーター）と交流する機会を提供し、心身両面から健康不安の解消を図ります。

また、患者が抱えている症状の緩和方法等についてのハンドブック及び保健・医療・福祉専門職用ガイドブックをもとに、保健・福祉関係者等への研修会を実施します。

◎ 阿賀野川流域地域健康教室委託

令和2年度から新潟医療福祉大学に委託し、流域の市町において、しびれなどの神経症状により健康不安をお持ちの方を対象にした健康教室を開催

【R6年度】

- ・ 五泉市会場 開催日：10月20日（日）、参加者：22名
- ・ 阿賀野市会場 開催日：11月10日（日）、参加者：9名
- ・ 阿賀町会場 開催日：11月16日（土）、参加者：6名

委託先及び流域市町と2回目の開催日を調整中

○ 健康教室実施内容

しびれなどの神経症状に関する講話(脳神経センター阿賀野病院院長 近藤先生)
学生によるレクリエーション(新潟医療福祉大学 社会福祉学科2年生、3年生)

(参考)

年度	開催と参加の状況
R3	五泉市で16名、阿賀野市で13名、阿賀町で9名
R4	五泉市で33名、阿賀野市で9名、阿賀町で9名
R5	五泉市で64名（2回）、阿賀野市で30名（2回）、阿賀町で9名

○ 開催状況

脳神経センター阿賀野病院近藤院長が、しびれ・痛みとの上手な付き合い方として健康に関する講話を行った。

その後、参加者と学生がレクリエーションと足湯を通して交流を行った。

○ 参加者からの感想

健康寿命を長くするため、本日の健康教室を参考に生活したい。(五泉市会場参加者)、若い方と接する機会が楽しかった(阿賀野市会場参加者)、足湯で身体全体が温まった。(阿賀町会場参加者)等、概ね好評であった。



(五泉市会場)



(阿賀野市会場)



(阿賀町会場)

◎ ケアガイド研修会

平成 22 年度から、流域の市町において、保健・医療・福祉関係者への研修会（ケアガイド研修会）を開催。

【R6 年度】

- ・ オンライン開催 開催日：10 月 4 日、参加者：46 名

(参考)

年度	開催と参加の状況
R1	新潟市で 41 名、五泉市で 16 名
R2	新潟市で 33 名、阿賀町で 11 名
R3	オンライン開催 参加者：46 名
R4	オンライン開催 参加者：40 名
R5	オンライン開催 参加者：45 名

(参考)

【ハンドブックの作成、配付】

- 平成 21 年度に新潟水俣病患者 50 名に聞き取り調査を実施し、新潟市と共同で作成（新潟大学医学部保健学科に委託）
- 平成 22 年度に被害者の方々、関係者、流域市町等に配付

【健康教室の開催（事業主体：流域市町）】※令和元年度まで

- 平成 23 年度から、市町に委託し、新潟水俣病患者を含めた地域の高齢者等を対象にした健康教室を開催
- 水俣病の症状や対処方法を学び水俣病に対する理解を深めるとともに、健康体操やレクリエーションの実施により心身機能の向上を図るなど介護予防への支援を実施



(ハンドブック表紙)

年度	開催と参加の状況
H27	五泉市で計 13 回開催し、延べ 155 名参加
H28	阿賀町で計 8 回開催し、延べ 172 名参加
H29	阿賀野市で計 4 回開催し、延べ 65 名参加
H30	五泉市で計 13 回開催し、延べ 162 名参加
R 1	阿賀町で計 2 回開催し、延べ 26 名参加

■水俣病研究委託事業

水俣病に関する研究成果の蓄積が、水俣病の検査や診断等に資することを目的として、水俣病に関する調査研究を新潟大学に委託します。

- 新潟水俣病の症状が多岐にわたることから、各科ごとに研究課題を設定し実施
- 実際の検査や診断に反映させていくためには、長年にわたり研究成果を蓄積していくことが重要

【R6 年度】

- 新潟大学医学部神経内科、眼科、耳鼻咽喉科で実施

(参考)

平成 21 年度から毎年継続して実施

■新潟水俣病福祉手当

新潟水俣病患者の療養及び健康管理等に係る経済的負担の軽減を図るため、新潟水俣病福祉手当を支給します。

- 支給対象者：
 - 新潟水俣病患者であって、次の各号のいずれかに該当することにより通常のレベルを超えるメチル水銀の曝露を受けた可能性のある者であり、一定の症状を有すると認められる者
 - (1) 昭和 40 年 12 月 31 日以前に、対象地域に相当期間居住しており、かつ阿賀野川の魚介類を多食したと認められる者
 - (2) 昭和 40 年 12 月 31 日以前に、阿賀野川の魚介類を多食したと認められる者であって、知事が適当と認める者
 - ※ 公健法により水俣病の認定を受けた者を除く
- 支給額：月額 7,000 円
 - ※ 新潟市居住者分については、新潟市が費用の 1 / 2 を負担
- 支給月：2 月、6 月、10 月（末日支給）
- 支給開始月：申請日の翌月分から支給（平成 21 年 4 月から受付開始）

【R6 年度】（R6.12 末現在）

- 支給対象者数：1,744 名

(参考)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
支給対象者数	788	1,053	1,530	2,217	2,365	2,333	2,370	2,324	2,267	2,204
年 度	R1	R2	R3	R4	R5	R6				
支給対象者数	2,135	2,067	1,999	1,924	1,807	1,744				

■健康不安者フォローアップ健診事業

特措法に基づく救済措置に申請した結果、対象とならなかった方の健康不安を解消するため、健康診査及び保健指導を行います。

- 対象者： 特措法に基づく救済措置に申請した結果、対象とならなかった方で、昭和46年末までに1年以上、阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴え、登録する方
- 内 容：
 - ・ 医師等による、診察、問診、身体測定、血圧測定、尿検査、血液検査、視力検査、聴力検査、心電図の検査および保健師等による、健康不安や一般的な生活習慣に関する助言等の保健指導
 - ・ 年1回、指定医療機関（全国17か所）において無料で実施

【R6年度】（R6.12末現在）

- 受診件数：2件

（参考）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
受診件数	0	5	5	5	3	3	3	3	5	4	2	1	2

※ 特措法が締め切られた平成24年度から事業開始。平成24年度は希望者なし。

■健康不安者に対する健診事業

特措法に申請を行わなかった方で、阿賀野川流域魚介類を食べたことにより健康不安を申し出た方に対し、健康診査および保健指導を行います。

- 対象者： 特措法に基づく救済措置の申請を行わなかった方で、昭和46年末までに1年以上、阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴え、登録する方
- 内 容：
 - ・ 医師等による、診察、問診、身体測定、血圧測定、尿検査、血液検査、視力検査、聴力検査、心電図の検査および保健師等による、健康不安や一般的な生活習慣に関する助言等の保健指導
 - ・ 年1回、指定医療機関（全国17か所）において無料で実施

【R6年度】

- 受診件数：8件（R6.12末現在）

（参考）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
受診件数	3	8	13	23	33	25	29	22	18	16	14	12	8

※平成24年12月から募集開始。

■認定申請棄却者に対する訪問保健指導事業

公健法に基づく水俣病の認定申請を棄却された方の健康不安等を低減するため、保健師等が訪問し、健康管理指導等を実施します。

- 特措法の受付終了後に認定申請を棄却された流域市町在住の方のうち、健康指導を希望する方に対して、保健師等が訪問して実施
 - ※ 新潟市、阿賀野市については、県から保健師に直接委託
 - ※ 五泉市、阿賀町については、県から市町に委託

【R6 年度】

- 申込件数：10 件（R6.12 末現在）
〔新潟市 2 件、阿賀野市 8 件〕
- 訪問件数：2 件（R6.12 末現在）
〔新潟市 2 件〕

（参考）

年度	訪問状況
R 4	新潟市 2 件、阿賀野市 8 件
R 5	新潟市 3 件、阿賀野市 5 件、五泉市 1 件

■新潟水俣病に係る式典

新潟水俣病の歴史と教訓を後世に伝えるため、式典を開催します。

- 二度と水俣病のような公害被害を起こさないとの決意のもと関係者が集い、新潟水俣病の歴史と教訓を伝えることを目的に、新潟水俣病公式確認日である 5 月 31 日に式典を開催

【R6 年度】

- 開催日
令和 6 年 5 月 31 日（金）
- 会場
新潟県立環境と人間のふれあい館
- 参集者
被害者、有識者、教育関係者、関係企業、行政関係（国、流域市町、新潟県）等
- 内容
各団体代表者からの後世へのメッセージ、新潟水俣環境賞作文コンクール優秀賞受賞者の作文朗読



(R6 式典の様子)

【R5 年度】

- 開催日
令和6年5月31日(水)
- 会場
新潟県立環境と人間のふれあい館
- 参集者
被害者、有識者、教育関係者、関係企業、行政関係(国、流域市町、新潟県)等

2 地域社会の再生・融和の促進

■阿賀野川流域地域フィールドミュージアム（FM）事業

阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、新潟水俣病の教訓を伝える環境学習や、光と影をテーマとしたイベント、地域の人々との話し合いなど、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指した様々なプロジェクトを展開します。

①環境学習分野

今日にも通じる新潟水俣病の教訓を未来に生かせる環境学習を目指し、『阿賀野川え〜とこだ！環境学習』を構築

【R6 年度】（R6.12 未現在）

○ 「あがのがわ環境学習ツアー」の実施

- ・開催回数：18回（4～7月、9月、11～12月）
- ・参加者数：延べ304名（県内の小学生、県内外の大学生、県内親子など）

○ 阿賀町教職員向け研修及び企業CSR研修・行政職員の合同研修の実施

- ・開催回数：6回（5月、7～8月、10～11月）
- ・参加者数：延べ54名（企業社員24名、教育関係者23名、行政職員7名）

※「旧昭和電工(株)鹿瀬工場の光と影の歴史を辿るプログラム」（座学45分＋視察60分）、「鹿瀬工場の現在の排水処理の取組を学ぶプログラム」（座学30分＋視察30分）または「阿賀町近代産業の光と影の歴史を辿るプログラム」（座学45分＋視察95分）新潟水俣病の教訓やCSRへの理解を深めるワークショップ体験（30分）を組み合わせ実施。令和4年度からは、教職員向けの座学のみで完結する「新潟水俣病の被害を学ぶプログラム」（座学120分）の提供も開始。



（R6「研修事業」の様子）

○ 新潟水俣病の現地学習サポートパックの実施

- ・対 象：県内小中学校
- ・開催回数：31回（4～7月、9～12月）
- ・参加校数：県内小中学校：9校（延べ922名）

※小中学校の現地学習を事前事後の出張授業を含めトータルでサポート



（R6「現地学習サポートパック」の様子）

（参考）

【環境学習基本理念の作成】

- 平成21年度から、阿賀野川流域の環境の専門家やNPOなどが参加した「環境理念ワーキングチーム」において議論を重ね、平成22年度に完成。

【あがのがわ環境学習ツアー】

- 過去の開催、参加状況
 - ・ R2：10～12月に計6回開催、県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など延べ177名
 - ・ R3：6、10～11月に計6回開催、県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など延べ163名
 - ・ R4：6～11月に計17回開催、県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など延べ350名
 - ・ R5：4～10、12月に計17回開催、県内の小学校の修学旅行生、県外の高校生、県内の大学生、県内親子など延べ405名

②イベント分野

地域住民と共に、自らの地域の歴史に向き合い見つめ直してもらう機会として阿賀野川の歴史・生活・文化の光と影や地域のあり方について考えを深める講座やパネル展の実施、FM事業の取組を広く周知するフォーラムの開催等

【R6年度】（R6.12末現在）

- 阿賀流域再発見・連続ツアー講座「阿賀野川流域のSDGsをさぐる～大地の豊かさを享受する、阿賀野川中流域の持続可能な風土とは？」

【座学】

- ・ 開催日：令和6年11月17日
- ・ 開催形式：対面式座学とオンライン配信（YouTube ライブ配信）の同時開催
- ・ 対面式座学の会場：NOC プラザ
- ・ 参加人数：対面式座学 34 名
オンライン配信視聴数：51 回（※開催日からバスツアー2日目開催日まで〔8日間〕の合計視聴数、なお申込者は21名）
- ・ 内容：現地バスツアーで巡る各スポットの事前情報をゲストが解説し、「阿賀野川中～上流域の大地形成」の全体像や「新潟水俣病の光と影」を学ぶ

【現地視察（バスツアー）】

- ・ 開催日：【現地バスツアー1日目】令和6年11月23日
【現地バスツアー2日目】令和6年11月24日
- ・ 開催会場：五泉市と阿賀野市の各スポット
- ・ 参加人数：合計62名
- ・ 内容：【現地バスツアー1日目】阿賀野川中～上流域の大地形成に関するミニ座学、五泉市の砂利採掘場、吉清水、南桑山油田、町屋の湧水、戸倉岩、川瀬のハンノキ林などの現地見学 等
【現地バスツアー2日目】安田瓦に関するミニ座学、安田瓦の製造工場見学、阿賀野川の砂利採取業と新潟水俣病に関するミニ座学、かわらティエ（安田瓦協同組合）見学とミニ鬼瓦づくり体験、阿賀野市の分田砂利プラントなどの現地見学 等



（R6阿賀流域再発見・連続ツアー講座の様子）

○ パネル巡回展「阿賀野川流域地域 水と大地のSDGsをさぐる【公害編】 流域が新潟水俣病に向き合い、乗り越えるために」

- ・ 新潟水俣病問題が今なお続く阿賀野川流域地域のSDGs（※「Sustainable Development Goals」（＝持続可能な開発目標）の略称）をテーマに、新潟水俣病が阿賀野川流域にもたらした被害や影響について、その複雑な経緯をたどった歴史を紐解きながら紹介するパネルを作成。
- ・ 令和7年1月から3月にかけて、阿賀野川流域市町の公共施設等11会場で開催予定。

○ 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム

- ・ FM事業の取組内容を一般県民や関係者などに広く周知するためのフォーラムを昨年度に引き続き年度末頃に開催予定。

【近年のイベント開催状況】

○ 阿賀流域再発見・連続ツアー講座

回数	開催年月日	会場	参加者数
第5回	令和4年11月3日	環境と人間のふれあい館	22名
		オンライン配信	視聴50回
	令和4年11月12日、13日	阿賀野川流域の各スポット	23名
第6回	令和5年9月3日	新潟ユニゾンプラザ	28名
		オンライン配信	視聴41回
	令和5年9月9日、16日	阿賀町	68名
第7回	令和6年11月17日	NOCプラザ	34名
		オンライン配信	視聴51回
	令和6年11月23日、24日	五泉市、阿賀野市	62名

○ パネル巡回展

年度	時期	会場
R3	12月～3月	新潟市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等5会場
R4	12月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等11会場
R5	1月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等11会場



(参考：R5「パネル巡回展」の様子)

○ 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム

回数	開催年月日	会場	参加者数
11	令和4年3月16日	オンライン配信後、ダイジェスト動画公開	視聴73回
12	令和5年3月21日	環境と人間のふれあい館	25名
		オンライン配信	視聴82回
13	令和6年3月20日	新潟市秋葉区文化会館	47名



(参考：R5「阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム」の様子)

④ロバダン！（炉端談義）

- 地域の様々な方々で行う少人数（10名程度）の寄り合い（ロバダン）を流域各地で開催し、地域の様々な意見を伺うとともに、FM事業の周知や参加への呼びかけ、流域の地域資源等の発掘等を行う

【R6年度】（R6.12末現在）

- 合計16回開催（下流域2回、中流域3回、上流域11回）
- 主な意見等

〔阿賀町〕

- ・ 自分が子どもの頃の集落では、炭焼きに従事したり船で下流に運んだりする人々がいた。どの家も畑を持っていて、様々な野菜を栽培して自家消費していた。自分の家では、自家製の納豆や鶏の卵、豆ご飯、アユなどの遡上魚を食べていた。ただ、ウグイやニゴイなどの川魚を網でよく獲っている人もいて、川魚をたくさん食べた人の中には新潟水俣病になった人もいた。

〔阿賀野市〕

- ・ （新潟水俣病の被害者が多く出た集落だが）子どもの頃は学校が終わると、阿賀野川で魚釣りして遊ぶことがあり、カジカやアユ、イトヨやフナなどを釣って食べた。昭和20年代後半の集落ではサケの地引網漁がまだ続いており、河原にはアンジャ小屋もあった。アユは30～40kgくらい漁獲して、干したアユをおつゆに入れて食べていた記憶がある。松浜から行商の女性がイワシを売りに来て、米と交換して手に入れていたようだ。

〔五泉市〕

- ・ 当時、学校教育の現場では新潟水俣病の被害に関する学習がメインで、（教える側の自分が重要だと考えていた）新潟水俣病が発生した原因やその背景のメカニズムを学ぶ観点がなかったため、新潟水俣病の教育から少し距離を置いてきた。現代社会では多角的な観点から学ぶことが非常に重要と感ずるので、今後はそうした観点からの教育にも力を入れていってほしい。



（R6「ロバダン！（炉端談義）」の様子）

（参考）

- 【R5年度】合計19回開催（下流域6回、中流域2回、上流域11回）

3 教育・啓発の推進

■水俣病発生地域間交流事業

水俣病の教訓を次世代に継承するため、水俣病発生地域である新潟、熊本両県の小学生が交流します。

- 両県小学校をリモートで結んで、「リモート授業」を行い、水俣病問題に対する正しい理解、環境保護に対する意識向上を図る。
 - ・ 両校の学校・地域紹介、児童アンケートを基にしたトーク
 - ・ 水俣病に関する学習成果発表、意見交換会の開催

【R6 年度】

- 前年度に続き、現地交流は見送り、新潟県と熊本県の小学校をリモートで結んで交流事業を実施した。
- 阿賀野市立笹岡小学校 5 年生 31 人と水俣市立水東小学校 5、6 年生 11 人が参加。
- 交流の内容
 - ・ 水俣病・環境問題への理解を深める学習に取り組み、成果を発表する。
第 1 回リモート授業（11 月 6 日）：学校紹介、学習成果を発表し合うことの約束
第 2 回リモート授業（1 月 29 日）：取組成果を発表。両校の親交・親睦を深める。



参考：笹岡小学校と水東小学校とのリモート交流（第 1 回目）の様様

【R5 年度】

- 新型コロナウイルスへの感染を予防するため、現地交流は見送り。
- 新潟市立岡方第一小学校（5 年生 11 人）と水俣市立久木野小学校（5、6 年生 7 人）の授業をリモートで結んで交流事業を実施。
水俣病や環境問題への理解を深める学習に取り組み、その成果を発表し合った。

■新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、各所から講師を招き、講演会を開催します。

【R6 年度】

(1) 豊田有希写真展&トークイベント

水俣市に生まれ、6歳の時に「胎児性水俣病」と認定され、水俣病第1次訴訟原告として16歳の時に勝訴。その後水俣病問題を世界に伝えるとともに、原因企業や行政などに対し「水俣病は終わっていない」と訴え続けている「坂本しのぶ」氏と彼女の普段の日々を撮影しているカメラマン「豊田有希」氏を招き、県内大学生などを交えたギャラリートークを行うとともに、豊田有希写真展を開催。

○ ギャラリートーク「水俣病について今、何を思うのか？」

- ・開催日 令和6年9月23日
- ・参加人数 41名

○ 豊田有希写真展「SASANQUA～しのぶさんの日々～」

- ・開催日 令和6年9月23日～10月16日
- ・観覧者数 1,828名

(2) 映画「常呂（ところ）でどしたっ！」上映会&トークイベント

新潟水俣病を抱えて生きる患者の日常を描いたドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」の続編「それからどしたっ！」に続く第3弾「常呂（ところ）でどしたっ！」の上映会と映画の関係者によるトークイベントを開催。

- ・開催日 令和6年10月27日
- ・参加人数 42名

【R5 年度】

映画「阿賀に生きる」とその続編「それからどしたっ！」の上映会と映画の関係者によるトークイベント、伊藤芳保氏の写真展を開催。

○ 映画「阿賀に生きる」上映会&トークイベント

- ・参加人数 35名

○ 映画「それからどしたっ！」上映会&トークイベント

- ・参加人数 50名

○ 伊藤芳保写真展

- ・参加人数 1,822名

■教師用指導資料等作成事業

新潟水俣病の教訓を、次世代を担う小・中学生に継承するため、教師用指導資料や副教材を作成し、活用を図ります。

【R6 年度】

- 小・中学生教育副読本の「はじめての新潟水俣病」を改訂予定。（R7.3）
冊子は 40,000 部印刷して希望する県内教育機関及び一般の方々に配付予定。

（参考）これまでに作成した資料の概要

【新潟水俣病教師用指導資料集】

- 作成の経緯
 - ・平成 20 年度 教師用指導資料作成委員会設置
 - ・平成 21 年度 委員会で作成した指導資料素案に基づき、モデル授業を実践
実践結果をもとに素案の検証を行い、指導資料作成
 - ・平成 22 年度 公立の小中学校、特別支援学校等など県内約 800 校に配付
 - ・平成 27 年度 第 2 集を 5,500 部作成し、県内小・中学校及び教育委員会等に配付
- 県教育委員会が発行する「教育月報」による周知
 - ・平成 22 年 3 月：「新潟水俣病教師用指導資料集の発行について」
 - ・平成 23 年 1 月：「新潟水俣病学習の推進～新潟水俣病教師用指導資料集を活用した授業実践に向けて～」
 - ・平成 24 年 1 月：「新潟水俣病学習の推進～新潟水俣病教師用指導資料集を活用した授業実践紹介～」として、県内の小学校 3 校による指導資料集を活用した授業実践事例を掲載
- 小・中学校での活用状況（新潟市を除く）
 - 平成 30 年度：小学校 74.9%（266 校／355 校）、中学校 42.9%（73 校／170 校）
 - 令和元年度：小学校 80.6%（279 校／346 校）、中学校 48.8%（82 校／168 校）
 - 令和 2 年度：小学校 83.6%（286 校／342 校）、中学校 43.1%（72 校／167 校）
 - 令和 3 年度：小学校 81.2%（272 校／335 校）、中学校 44.3%（74 校／167 校）
 - 令和 4 年度：小学校 78.6%（261 校／332 校）、中学校 45.5%（76 校／167 校）
 - 令和 5 年度：小学校 74.9%（245 校／327 校）、中学校 35.9%（60 校／167 校）

【小学校用副教材「未来へ語りついで」】

- ・平成 23 年度に改訂版を 25,000 部作成し、県内小学校約 530 校の 5 学年児童に配付
- ・令和 3 年度に改訂版を 700 部印刷して希望校へ配布。ホームページからダウンロード可能とした。

【中学生以上用副教材「新潟水俣病のあらまし」】

- ・平成 24 年度に改訂版を 29,000 部作成し、県内中学校 241 校の生徒及び教育機関に配付する他、一般向け資料として配付
- ・令和元年度に改訂、5,000 部印刷し、県内教育機関及び一般の方々に配付
- ・令和 5 年度に改訂、5,000 部印刷し、県内教育機関及び一般の方々に配付

【中学生用副教材「新潟水俣病が教えてくれたもの～人間の活動と環境のかかわり～」】

- ・平成 25 年度に 26,000 部作成し、県内中学校全校 240 校に配付
- ・平成 30 年度に 10,000 部作成し、県内中学校及び教育委員会等に配付

【環境学習等支援事業実施報告書・授業記録集】

- ・平成 26 年度に、5 か年の授業記録をまとめた記録集 4,000 部作成し、県内小・中学校等に配付

【はじめての新潟水俣病リーフレット】

- ・平成 26 年度に 20,000 部作成し、県内小・中学校・高等学校等に配付

【新潟水俣病が教えてくれたもの～豊かな阿賀野川の自然と人～】

- ・平成 28 年度に 50,000 部作成し、県内小学校及び教育委員会等に配付
- ・令和 4 年度に改訂版を 20,000 部印刷して希望校や来館者等に配布。ホームページで公開し、ダウンロード可能とした。

【現場から学ぶ新潟水俣病～教訓を語り継ぐ～】

- ・平成 29 年度に 5,000 部作成し、県内小・中学校及び教育委員会等に配付

【水俣病発生地域間交流事業 事業報告書・記録集】

- ・令和 2 年度 700 部作成し、参加校及び教育委員会等に配付

■小・中学校への環境学習等支援事業

子どもたちに、新潟水俣病のような悲劇を繰り返さない力や、差別・偏見をなくす力を身につけてもらうため、小・中学校が家庭や地域と連携して実施する環境学習や人権学習を支援します。

【R6 年度】

- 県内 9 校をモデル校に指定し、環境学習等を実践

学校名	活動テーマ
上越市立東本町小学校	「つくって、食べて、見つめる暮らし」
上越市立北諏訪小学校	「わたしたちと自然破壊」
妙高市立新井中央小学校	「食と農の応援隊～生きること・食べること」
妙高市立妙高高原小学校	見つめなおそう 私たちの食と暮らし
五泉市立五泉小学校	○五泉市に生息する魚トゲソを通して水の汚れについて学び、環境保護への問題意識を持つ。 ○公害問題を通して近くの川で起きた新潟水俣病を学ぶ。 ○公害問題と水の関わりについて学ぶ。
五泉市立五泉南小学校	○五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れについて学ぶ。 ○阿賀野川流域で発生した新潟水俣病を通じて、水環境を守る大切さを学ぶ。
五泉市立川東小学校	トゲソの里水の里川東
五泉市立愛宕小学校	五泉市に生息する魚トゲソをとおして環境問題、水の汚れを学ぶ。 阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。
五泉市立村松小学校	○守ろうトゲソと五泉の水環境 ○守ろう安全な暮らしと水環境

- ・ 新潟市も同様に事業を実施（14 校）

新潟市立葛塚東小学校、木崎小学校、木戸小学校、関屋小学校、女池小学校、亀田西小学校、新津第三小学校、大通小学校、真砂小学校、西内野小学校、黒崎南小学校、漆山小学校、南浜中学校、白南中学校

- 平成 22 年度に配布した「新潟水俣病教師用指導資料集」の普及と活用を図るため、モデル校において、指導資料集を活用した実践を行い、授業記録等の公表により新潟水俣病学習の普及を図る。

（参考）【R5 年度】

- 9 校をモデル校に指定 ※ほかに、新潟市（11 校）
- モデル校 上越市 4 校・五泉市 5 校

4 民間団体等の活動の促進

■新潟水俣病関連情報発信事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、民間団体等が提案する新潟水俣病の教訓の情報発信を行う事業に対し、補助を実施します。

【R6 年度】

3 団体 3 事業に補助（公募）

[補助事業]

○ 新潟大学

「新潟水俣病の社会課題を発見し、発信するフィールドワーク・スキルの養成」

【事業目的】

新潟水俣病の被害者のみに頼ることのない「水俣病の教訓化」の探求とその成果の発信を通して、新潟水俣病患者をはじめ、障害や病気を有する者を支える市民の共同体を創造すること。社会学と文化人類学分野での現地フィールドワークを専門とする2名の教員体制のもと、受講者らは新潟水俣病に関する情報収集、社会問題の捉え方、聞き取りや記述の方法、さらには社会に向けた発信の方法について、協働的学習を通して主体的に学ぶ。

【事業内容】

- ・ 学内での講義、協働学習
- ・ 新潟県阿賀野川流域および熊本県水俣市における現地踏査
- ・ 合同フォーラムを通じた市民社会への成果の発信と市民の対話場の構築

○ 新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の高度推進：教育現場での有効な水俣病の多角的な伝え方に関する調査」

【事業目的】

熊本県水俣市を訪問し、被害の実態を学びながら水俣病をどのように理解し、次世代に向けた環境認識の共有、水俣病事件の継承をどのように行っているのかを学び、新潟では阿賀野川流域等の訪問と特別講義、ワークショップを連携させながら、公害と現在の環境言説をつなぐ試みを確認し、その中で若い世代にはどのような公害語りへのアクセスが有効かを検討し、日常的な環境言説に水俣病事件を効果的に取り込む方法を見出すことで、新潟における今後の情報発信に関する施策につなげること。

また、学内にある水俣病関連情報コーナーを活用し、学生や地域住民が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得できるようにする。

また、水俣及び阿賀野川流域訪問の成果を多様な授業で紹介し、事業主体共同のシンポジウムを実施する。

【事業内容】

- ・ 阿賀野川流域視察、フィールドワーク
- ・ 熊本県水俣市周辺訪問
- ・ 特別講義の実施
- ・ 事業主体共同シンポジウムによる地域に向けた発信

○ 新潟医療福祉大学

「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業

－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－

【事業目的】

- ①事業の主体となる学生の新潟水俣病に対する正しい理解と持続的な活動に向けた動機づけを高める。
- ②交流活動や健康教室等を通じて信頼関係を形成できた患者の方々から「主観的体験としての事実」を聴き取り、次世代に伝えるための記録を集積する。
- ③学生等による発生地域の現地学習を通じて、「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現」に向けた意識や行動の変容を図る。
- ④同意の得られた患者の自宅等に学生が訪問し、学びを得たり話し相手になる生活支援の有効性について検討する。
- ⑤事業主体共同フォーラムや事業報告会等による「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現」に向けた啓発活動を行い、新潟水俣病関連施策の推進に寄与する。

【事業内容】

- ・ 新潟水俣病に関する事前学習プログラム
- ・ 新潟水俣病患者へのアウトリーチ支援
- ・ 新潟水俣病患者からの語り部による口演
- ・ 新潟水俣病患者への聴き取り
- ・ 新潟県における現地学習
- ・ 新潟水俣病患者との交流プログラム
- ・ 新潟県民に対する情報発信プログラム

< 3大学合同フォーラム 原点回帰～想いを紡ぐ～ >

日 時：令和7年3月16日（日） 13時～16時

会 場：新潟県立生涯学習推進センター 大研修室

内 容：

(1) 学生からの発表

- ・ ミナマタを語るとは自分を託すこと～ペンで線を引く水俣病を超えて～
(新潟大学)
- ・ 過去は現在を変えられるか～水俣・阿賀を訪ねて考えたこと (新潟県立大学)
- ・ 他人ごとから自分ごとへの想いの転換～水俣病を学ぶプロセスをとおして
(新潟医療福祉大学)

(2) 想いの語り合い

これまで新潟水俣病に関わって来られたゲストをお招きして、新潟水俣病に対する「想い」を語っていただき、その後、参加者同士で新潟水俣病患者と共に生きる社会づくりへの「想いを語り合う」。

定 員： 80 名



(参考：R5「4大学合同フォーラム」の様子)

(参考)

年度	補助事業者	事業概要	参加者数
R3	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ 261 名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟が発信する水俣病をめぐる伝承方法と環境意識の形成方法に関する調査	延べ 346 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業 －新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 293 名
	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	—
R4	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟における水俣病をめぐる適切な理解の方法と環境の未来に向けた共通認識の形成に関する調査	延べ 326 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業 －新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 310 名
	上越教育大学	新潟水俣病を学び伝える小中学校社会科学習プログラム開発	—
R5	新潟大学	新潟水俣病の社会課題を学び、発信するフィールドワーク・スキルの養成	—
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：若い世代にとって有効な水俣病の伝承方法に関する調査	延べ 421 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業 －新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 226 名
	上越教育大学	教員養成課程の学生と現職教員らの協働による子どもたちが伝え・学び合う新潟水俣病小中学校学習プログラム実践	—

5 ふれあい館の活用と情報発信

■ふれあい館事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、ふれあい館において、講座や講演会、企画展示等を実施するとともに、展示パネルの整備を行います。

- ふれあい館管理運営協議会において、館事業の実施内容や、展示物・展示方法等について検討し、これを基に事業を実施している。

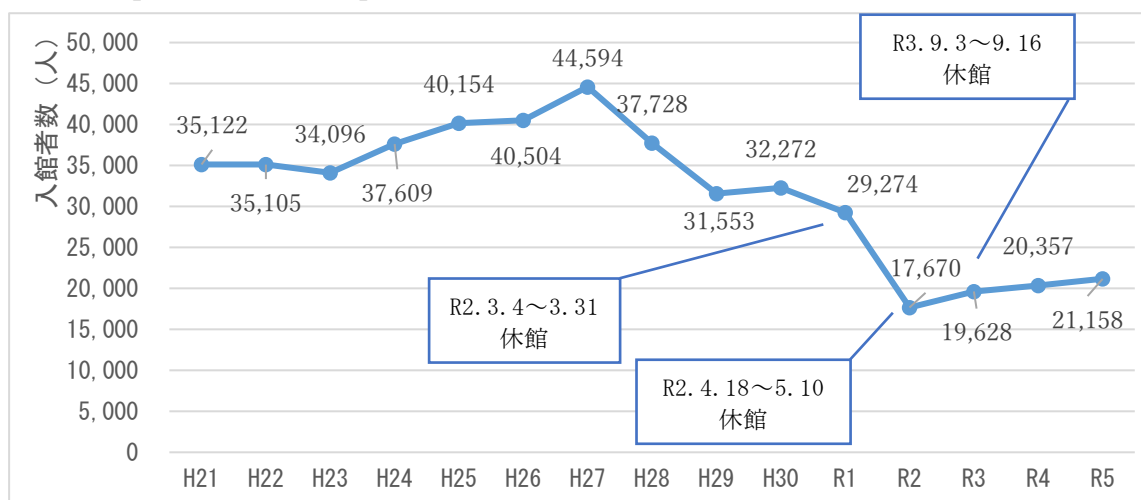


(県立環境と人間のふれあい館)

【R6 年度】

- 入館者数：21,855名 (R6.12末現在)
- ※ 開館からの入館者数計 785,562名
 - ・ R5年度：21,158名

(参考)【入館者数の推移】



○ 館内等での講演会等や各種パネル展の開催

：講演会等 10回、写真・パネル展 9回 (R6.12末現在)

※ 3教育・啓発の推進の「新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業」に記載の事業についても回数に計上

〔主な講演会等と参加者数〕

- ・ 阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業パネル展
(4月13日～5月12日) (観覧者 2,256名)
- ・ ゴールデンウィーク特別上映会「四大公害病を学ぶ」
(5月3日～5月6日) (観覧者 57名)

- ・新潟水俣病写真展「阿賀野川のおだやかな暮らしとその後」
(6月22日～7月21日)(観覧者1,772名)
- ・講演会「新潟のメチル水銀中毒について」(6月30日)
講師：斎藤 恒(木戸病院名誉院長)(参加者58名)
- ・一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう！(8月3日)
講師：高橋なんぐ(有ナマラエンターテイメント)
ビュー福島潟佐藤レンジャー(参加者12組24名)
- ・山口冬人写真展「あがのがわの息吹」&ギャラリートーク
写真展(11月15日～11月30日)(観覧者1,172名)
ギャラリートーク(11月16日)(参加者35名)
- ・新潟水俣病講座5回(参加者合計：401名)
(講師は、環境と人間のふれあい館館長あるいは語り部)
 - ①城西大学：64名
 - ②新潟食料農業大学：107名
 - ③新潟医療福祉大学：155名(78+77)
 - ④新潟大学：75名

[R5年度実績] 講演会等10回、写真・パネル展9回

※3教育・啓発の推進の「新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業」についても回数に計上

年度	主な内容	主な講師等	参加者数
R5	フィールドミュージアム事業パネル展		1,724名
	ゴールデンウィーク特別上映会(語り部映像、映画「阿賀に生きる」ほか)		24名
	新潟水俣病写真展		2,223名
	講演「故坂東克彦弁護士と新潟水俣病」	関 礼子	36名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ(ナマラ)	10名
	小原王明写真展		1,544名
	小原王明写真展トークイベント	小原王明、遠藤麻理	61名
	新潟水俣病講座(5回)		551名

○ 語り部の口演会（ふれあい館または小・中学校等に出張）の実施

- ・ 回数等：82回、4,756名（R6.12末現在）

※ R5年度：85回、3,830名



（R6「語り部口演会」の様子）

○ 展示・施設整備

- ・ 全館でWi-Fi接続が可能なネットワーク環境を整備（令和4年度）

■ 資料整備促進事業

貴重な新潟水俣病関連資料の散逸、劣化を防ぐため、収集及び保存等を実施します。

- 過去の新潟水俣病裁判記録等資料のデータベース化や、デジタル化を実施

○ 主な整備資料の内容

- ・ 裁判資料（第2次訴訟関係、裁判関係記事掲載新聞資料）
- ・ 近喜代一氏日記
- ・ 新聞スクラップ、鹿瀬工場タイムス
- ・ 機関誌（支援団体、昭和電工関係、四大公害病裁判支援団体関係）
- ・ 新潟水俣病関係映像・写真・音声資料 など

○ 資料整備の状況

区分	映像・音声	写真類	機関誌	新聞	冊子類	資料	書籍類	雑誌	その他
資料数量	440	78	28	73	465	2,015	509	481	20
うち、デジタル化済	431	4	19	57	75	575	3	0	1

※ 資料数量：ふれあい館での管理単位（つづり）による。（資料の点数とは異なる。）

■新潟水俣病学習サポーター事業

教育現場における新潟水俣病学習の普及・充実を図るため、これまで新潟水俣病学習に携わってきた教員OB等を県内小中学校へ派遣し、教職員を対象に、水俣病学習の指導・助言を行います。

【R6 年度】

- 新潟水俣病学習サポーター
3名（元新潟水俣病教師用指導資料作成委員）
- 活動実績
 - ① 学習の指導・助言 実績なし（R6.12 末現在）
 - ② 教職員研修 実績なし（R6.12 末現在）

【R5 年度】

- 新潟水俣病学習サポーター
3名（元新潟水俣病教師用指導資料作成委員）
- 活動実績
 - ① 学習の指導・助言 1校
 - ・ 新潟水俣病学習指導計画について
 - ・ 環境と人間のふれあい館見学前後の指導について
 - ② 教職員研修 5校
 - ・ 新潟水俣病の原因、発症のメカニズム、最近の状況等について、「授業づくり」や「資料活用」などの観点を踏まえての指導



（R5「新潟水俣病学習サポーター」による活動の様子）

- 指導して感じたこと
 - ・ 研修では、体験による「自分の言葉」での「学びと実践への意欲」が感じられた。特に「見ようとしなければ見えない」という感想があり、ねらいは達成できた。
 - ・ 児童が自分事として捉えるためにふれあい館の見学や被害者の方との交流等、学習に有効に活かそう意欲的になってくれたと思う。
- 利用者からの感想
 - ・ 自分の知っている知識が少なかったが分かりやすく学ぶことができた。
 - ・ 過去の過ちから何を学び、現在どんな活動が行われているのかを知ることで、子どもたちにも解決に向けた思考を持たせられると感じた。
 - ・ 広く人権教育を扱う講座もよいが、水俣病に特化した内容の学習で、より深い知識を得られた。全体を振り返れば、人権教育の他の事象と深く繋がりが感じられた。

■一日館長 お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう！

新潟水俣病の経験と教訓が若年代の親子へ効果的に語り継がれることを目的に、お笑い芸人高橋なんぐ氏と阿賀野川流域地域の親子と一緒に館内を探検し、新潟水俣病をテーマに調べ学習を行います。

【R6 年度】

○ スケジュール

- ・開催日 令和6年8月3日（土） 午前9時30分～午後4時30分
- ・講師 一日館長 高橋なんぐ氏（(有)ナマラエンターテイメント）
サポート講師 環境と人間のふれあい館新潟水俣病学習サポーター
レンジャー 佐藤安男氏（水の駅「ビュー福島潟」）
- ・内容 ①座学
②高橋なんぐ一日館長を中心にふれあい館の館内を探索
③探索で見つけたテーマについて情報を集め、調べたことを整理する。
④佐藤安男レンジャーと福島潟で草花を観察等し、自然と水環境の大切さについて考える。

○ 参加者

親子12組

○ 参加者からの感想

- ・映像を交えながらで分かりやすかった。
- ・子供が意外と興味を持った。来年もまた来たいと言っている。
- ・話を聞いてから展示を見ることで理解が深まりました。阿賀野川をさかのぼってみたい。
- ・なんぐさんがとても優しい。来年もまた来たいが、その時は今年よりも長い時間がうれしい。



（R6「一日館長」事業の様子）

【R5 年度】

- 開催日 令和5年7月29日（土） 午前9時30分～午後0時30分
- 参加者 親子5組